

③ 具体的イメージ

アリーナ機能を中心とした複合施設

アリーナ：周囲を観客席で囲まれた多目的利用可能な平らな床面

ベースキャンプとして圏域内外の施設と連携して一体としてビジョンを実現する施設

次のようなコンテンツを担うことを想定

- ◎ 子供・青少年がプロスポーツに触れ、各種スポーツを本格的に学べるような市町村・校区を越えたクラブチームの拠点となる
- ◎ リニアの利便性を活かして首都圏からプロの指導者が訪れ、ワールドクラスを目指せる環境を整備
- ◎ パラスポーツ(障がい者スポーツ)、シニアスポーツの一大拠点となる
- ◎ 時には、大規模なスポーツ大会やイベント・コンサート、コンベンションを開催
- ◎ 獅子舞や地歌舞伎、人形浄瑠璃、無形文化財の民俗芸能(祭り・踊り)などを国内外に発信



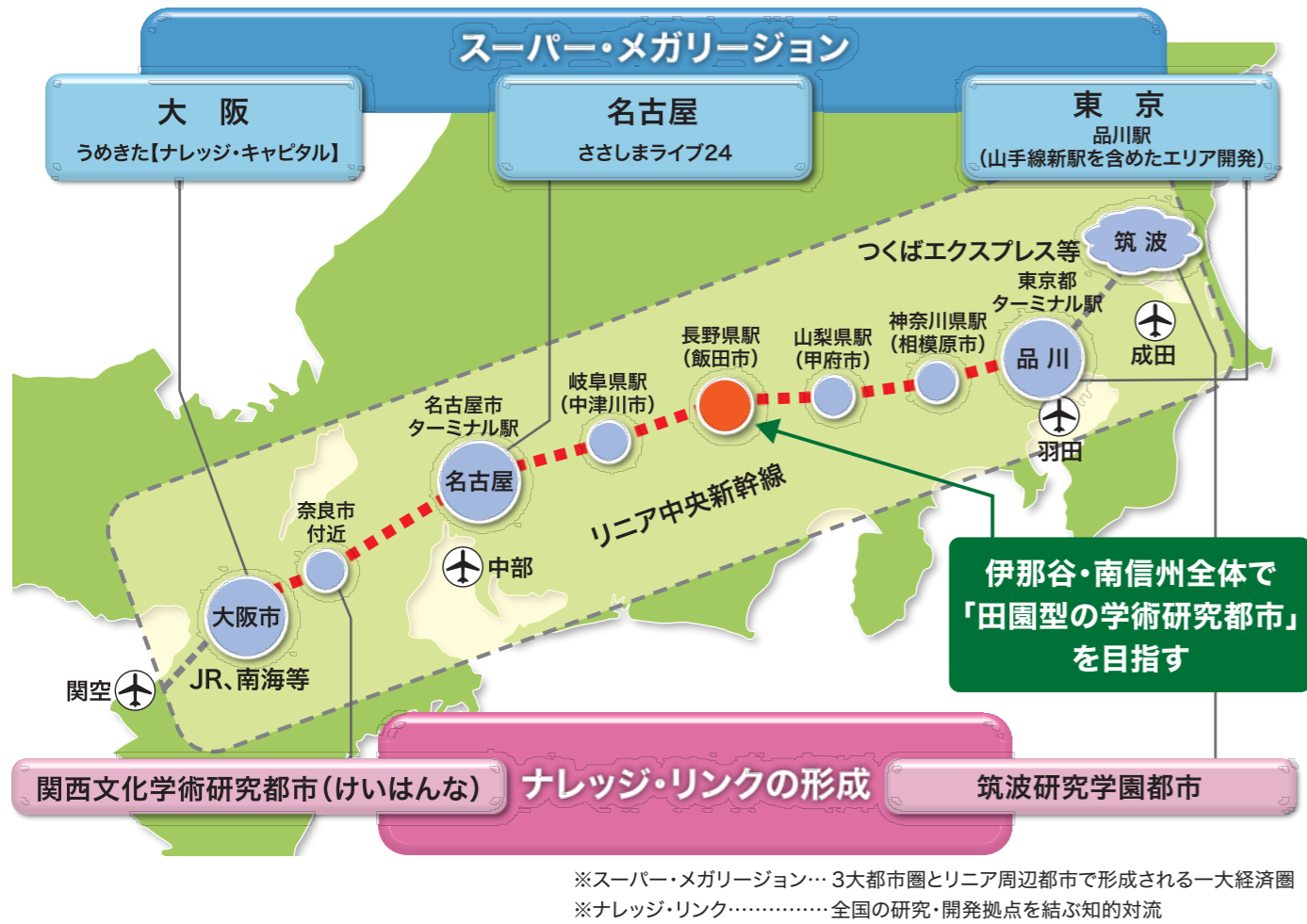
リニア時代に向けた新施設の整備に関する「基本的考え方」(案) 概要版

新施設整備に向けて今後検討を要する論点

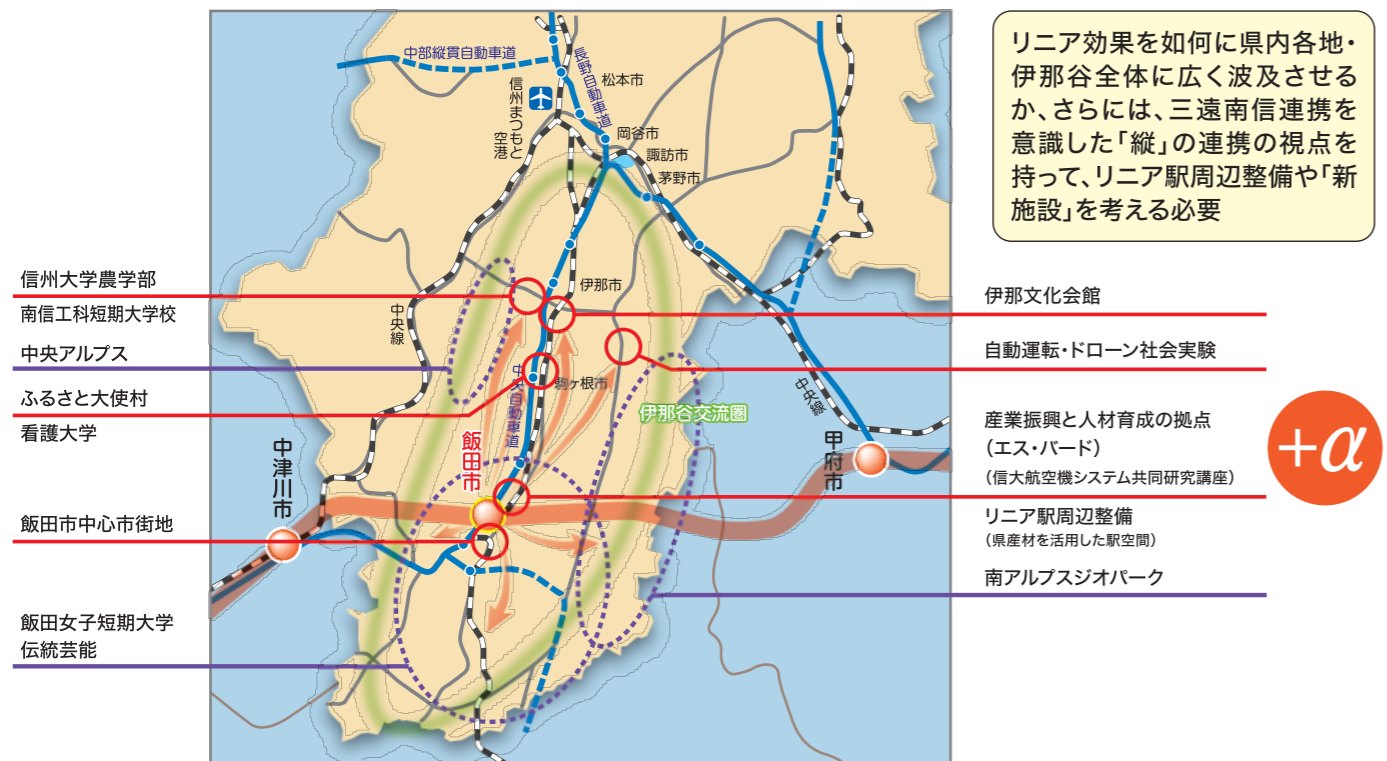
- 施設の建設・運営の方式(公設民営、民設民営ほか)
- 座席数をはじめとする施設規模
- 利用形態(興業主体か住民利用主体かなど)
- 立地条件(面積、アクセス、法的条件)の整理と候補地の絞り込み
- 概算事業費、財源
- 開設時期(目標)

● 取り巻く環境

- リニア時代における伊那谷・南信州は、「スーパー・メガリージョン」「ナレッジ・リンク」の中で日本全体さらには世界に対して存在価値を発揮できるか、という視点が不可欠
- リニア沿線各都市との連携と差別化を考え「長野県らしい、伊那谷らしい」アプローチが必要



● 伊那谷・南信州における連携



① 施設を考える上でのポイント



② コンセプト

- ◎ **スポーツや芸術文化を「学ぶ」環境を充実させることで、住民 (特に若い世代) の誇りや自信を創造する**
- ◎ この地域の **伝統芸能や文化活動など「学ぶ」に値する価値を国内外に発信する**
- ◎ 公民館活動に代表される「学びの土壌」をベースとした **交流と体験を通じた能動的な「学び」により、新たな価値を創造する**
- ◎ 「一か所完結型」でなく、圏域内外の施設と連携して一体としてビジョンを実現 (= ベースキャンプ)

「学びの県づくり」の拠点となるような
信州「学びのベースキャンプ」 (仮称)